

## 第5回文化マスタープラン市民検討会議 議事録

平成30年1月17日(火) 午後6時～8時

於：長久手市文化の家

### 1. 改訂マスタープランの概要

事務局より、マスタープランの概要について説明。

- ・ 「文化マスタープラン」から「文化芸術マスタープラン」に。  
(「文化芸術」という用語が一般的になったため)
- ・ 「世話人のことば」を追加することで、市民主体であることがわかるようにした。
- ・ マスタープランの体系について、6本の柱を作成。各重点内容については、文カフェでの意見を挙げた。
- ・ 現在、外部に出て活動することが増えているため、これまでなかった普及・啓発活動を重点化。
- ・ 今後、社会包摂が重要になるため、福祉事業に取り組んでいく。
- ・ 周知不足と言われることが多かったため、市民と連携して広報を行っていく。
- ・ 今回は10年間の具体的な計画を立てることを避けた。代わりに、5つの重点施策に具体例を加えた。
- ・ 「市民検討組織」を追加。話し合いの場を設け、マスタープランの検証などを行う。
- ・ (文化の家) 来年度から、任期1年の市民館長を募集して運営する。対外的な活動が増えるため、多様な場にコミットできるような館長を考えている。

### 2. 世話人からの意見

- ・ 市民のアイデアが多く含まれている。それらが、アクションプランの中で活かされるとよい。
- ・ 一見した時のわかりやすさが重要であるため、全体の俯瞰図があると良い。
- ・ 今回は市民主体の改訂となった。期間が短く、無理な部分もあったが、やってみて気づけた点がたくさんあった。今回の経験を次回に活かして、本当の市民主体に。
- ・ 現在は福祉と芸術に距離がある。近づいていく方法を考えることが、文化の家の次の一歩になる。
- ・ 市民主体であるなら、マスタープランの文言も市民を主語とすべき。誰が言っているのか、文章を見直す必要がある。

### 3. 意見交換

[マスタープランの構成・内容について]

- ・ 長久手クオリティに関しては、文化の家を軸として、ぶれない方が良い。
- ・ アクションプランの問題が大きい。理想的なことは書いてあるが、実際に実現できるのか（人数の確保やクオリティの維持の問題など）。まずはやれることからやるべき。
- ・ 「長久手クオリティ」という言葉がわかりづらい。他の市にはないものをやっているということが、長久手外の人にもわかるように。

[市民参画に関する事柄]

- ・ 市民が事業の一端を担うというのがどういうことなのか、具体的に見えてこない。
- ・ 市民館長を置く必要性は何か。  
→ 一行政部長としての館長では、目が届かない。市民の目を持った館長を置きたい。
- ・ 市民館長だけでは、一人に責任が集中するのではないか。
- ・ 市民検討組織はどうするのか。利害関係から離れた人も含み、外からの意見が入ってくる道筋を作るべき。
- ・ 若い人がもっと場に出てくるのが大事。そうすることで若い人の意見が出てくる。
- ・ 市民に全面的に任せることはできない。クオリティを維持するためには、文化の家が責任を持つべき。

[芸術文化に関する事柄]

- ・ 芸術文化の育成が「芸術家」の育成になってしまっている。それはおかしいのではないか。芸術家を育てるのではなく、芸術が盛んな町として。
- ・ 芸術家をお願いして作品を用意すれば芸術になる、というわけではない。芸術のまちとしてのクオリティを上げていく必要がある。
- ・ 芸術のまちアイデンティティ = 長久手をイメージした時に「芸術」が思い浮かぶ
- ・ 芸術家が消費されてはいけない。市民検討組織などに芸術家も巻き込んで、芸術家の声が届くような体制にすべき。

### 4. 今後の流れ

- ・ 今回（第5回検討会議）で挙げた修正点を反映させ、パブリックコメントへ。  
パブリックコメントの内容について、メールで検討会議のメンバーにも意見を聞く。
- ・ 第5回文カフェで、できあがったマスタープランの概要説明を行う。